

偏在や地域・診療科間の医師の偏在等が挙げられるが、何と云っても一番は、国が医療の進歩、ニーズに見合った医師数の養成をせず、医療費削減政策を進めたこと等があげられます。

今後の医師確保の方策は、今日、待遇で動く医師は少なく、若い医師はトータルに患者を診る勉強ができる病院、ベテラン医師は専門の技量を存分に生かせる病院など、やりがいのある病院に集まる流れになってきていることから、その環境作りが大切です。

又、地域全体で支える医療構築のためには中核病院と病院診療所、開業医、福祉、介護との連携強化が必要で、これを進めなくては地域医療は守れません。さらに医療者側と受診者側が、互いに望む地域医療を語り合う情報交換の場が必要です。」と話され、今後の特別委員会活動の参考となりました。

**岩手・宮城内陸地震等
被害調査特別委員会**

【総括】

当特別委員会は、岩手・宮城内陸地震等による被害状況の把握とその対応状況について調査いたしましたので、その概要を報告いた



現在も通行止の県道花巻衣川線

します。

7月25日の委員会では、市長及び関係する部長の出席を求め、国や県への要望活動の報告、岩手沿岸北部を震源とする地震の被害状況の報告を受け、市内の地震被害状況について調査しました。8月21日の委員会では、市長及び関係する部長の出席を求め、主に災害義援金活用による被災者支援について調査しました。9月22日の委員会においては、7月31日及び8月1日に実施したグループごとの現地調査の報告を受け、各施設の被害状況について各委員が共通理解を深めました。9月24日の委員会においては、住宅等の被災者が、

被災者生活再建支援法の適用を受けられず、今後の住宅や生活の再建に困難を極めている状況が見られることから、その改正を求め、国に対する意見書の提出を確認いたしました。

【第1班 農地】

胆沢区下横沢原の水田亀裂・住宅一部損壊と衣川区衣原地内のため池・増沢ダム・林道黒滝衣の滝線・長袋地区水田約5反歩を調査いたしました。水田は地割れがひどく収穫後工事をしないと作付出来ないうちにありました。ため池はパイプラインが壊れ地割れにより水がなく個人所有でもあり補助



亀裂の入った水田（胆沢区）

【第2班・急傾斜地】

対象になるか？との声があり、増沢ダムは、亀裂や歪みがひどく、衣の滝付近では土石流の規模が東京ドーム半分ぐらいとの説明がありました。



落石により市道を遮断した巨大岩石（衣川区天土）

急傾斜地は衣川区3箇所、胆沢区1箇所の調査をしました。衣川区天土は直径1m以上の岩石が崩落、また巨大岩石が市道を遮断、石生地区は裏山に亀裂が入り、地すべりの危険地域、大平は住宅の前の急傾斜地の中腹が膨み地滑りの危険、胆沢区下鹿合の胆沢川右岸の休耕地内の土手がえぐられ崩壊していました。どの地域も今後